

N1グローバル・ジャパン クラスAドル建て

N1グローバル・ジャパン クラスA (ドル建て)は10月の運用を終えました。10月の運用成績は-23.62%、1口当たりの純資産価額は64.85米ドルとなりました。N1グローバル・ジャパン(以下、「当ファンド」)はケイマン籍オープンエンド契約型外国投資信託であり、日本の金融庁に登録されています。当ファンドはユーロ建てクラスと米ドル建てクラスがあり、最低投資額はそれぞれ100口以上、100口単位です。現在のところ、N1グローバル・ジャパンの販売会社はキャピタル・パートナーズ証券株式会社のみです。当ファンドの詳しい申し込み方法については、キャピタル・パートナーズ証券のホームページ(<http://www.capital.co.jp>)をご確認ください。

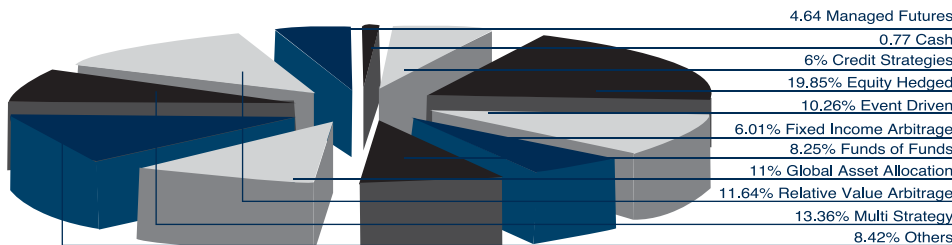
当ファンドの投資目標は、複数のヘッジファンドへの投資を通じて純資産の中長期的な増加を追求し、株式と債券といった伝統的資産からなるポートフォリオに代わる、代替投資手段を提供することです。投資目標を達成するために、戦略の異なる複数のヘッジファンドを独自の手法で選択し、従来のポートフォリオに強力な分散効果を付加したバランス型ポートフォリオを構築します。

N1グローバル・ジャパンは、複数の統計パラメータに基づいて最適なヘッジファンドを選定する独自システム、「N1 Fund Allocator® TM」によって運用管理されます。N1ファンドの投資委員会は、N1 Fund Allocator® TMによって選定された個々のヘッジファンド・マネージャーに対して徹底したデュー・デリジェンスを実施するとともに、各ファンド間の相関性を低く抑えることによって、高い分散効果を持つポートフォリオを構築します。N1ファンドの投資委員会は、N1Fund Allocator® TMの洗練と強化を続けることによって、グローバル・マクロ、アービトラージ、イベント・ドリブン、ディストレスト証券、エクティ・ロング/ショート、相対バリューといった様々なヘッジファンド戦略への投資機会を追求します。

ファンド・マネージャー プロフィール

ニク・ハラチ氏:ヘッジファンド業界で10年以上の投資・運用経験を持ち、N1のファンド選定システム「N1 Fund Allocator® TM」の開発者です。N1ファンド投資委員会の議長を務めます。

ASSET ALLOCATION



上記アロケーションは7月末現在のものです

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	Total
2008				1.56%	2.11%	2.63%	-4.65%	-4.68%	-12.23%	-23.62%			-35.15%

ファンド・パフォーマンス・データ

1口当たりの純資産価額	64.85米ドル
設定来のパフォーマンス	-35.15%
最大月次上昇率	+2.63%
プラス月数	42%

ファンド情報

投資戦略	ファンド・オブ・ヘッジファンド
設定日	2008年4月
通貨	米ドル建て
形態	オープンエンド契約型投資信託
最低投資単位	100口以上100口単位

MONTHLY COMMENTARY

投資家の皆様へ

10月、N1 Global Master SP(公募外国投信「N1グローバル・ジャパン」のマスター・ファンド)は前月比7.11%の下落、公募外国投資信託「N1グローバル・ジャパン」(USDクラス)は前月比 23.62%の下落となりました。2008年10月の年初来パフォーマンスは、N1 Global Master SPが10.29%のマイナス、N1グローバル・ジャパン(USDクラス)が35.15%のマイナスです。

最初に、私どもN1 Asset Management (以下「管理会社」)は、公募外国投資信託「N1グローバル・ジャパン」の10月末純資産価額(NAV)の計算および公表が遅れましたことを投資家の皆様に対して心よりお詫び申し上げます。2008年12月の第2週にバーナード・マドフ事件がニュースで大きく取り上げられました。私ども管理会社がN1 Global Master SP(以下「マスター・ファンド」)の投資先である個々のヘッジファンドを詳しく調査しました結果、そのうち1つのヘッジファンド(Kingateファンド)のほとんど全資産が実質的にバーナード・マドフ関連のファンドに投資されていることが判明いたしました。そのため、マスター・ファンドに含まれるKingateファンドの資産について再評価が必要となりました。慎重に注意深い計算を行なった結果、Kingateファンドはマスター・ファンドの(再評価前)純資産の約3.41%を占めていることが分かりました。2008年10月末時点、N1グローバル・ジャパンはマスター・ファンドに対して約3.2倍のレバレッジ比率で投資を行っていたため、Kingateファンドの資産の全額償却によってN1グローバル・ジャパンが受けたリターン低下効果は約10.9%と見積もられます。投資家の皆様がニュース等でご存知の通り、マドフ事件は数多くのファンド・オブ・ヘッジファンズ、年金基金、厚生年金、各種団体、一般事業会社、金融機関などを巻き込む大規模なスキャンダルに発展しました。

この予期できない事件を受けて、管理会社は法律顧問および受託会社と慎重に検討を重ねた結果、Kingateファンドに関わる損失を11月以降に繰り延べるのではなく即座に10月末付けで償却するほうが全投資家の利益を保護するのに最善の施策であると判断いたしました。マドフ事件が報道された時点でマスター・ファンドの10月末純資産価額(NAV)は既に計算されており、管理会社の承認を待たない状態になっていました。しかしながら、管理会社は計算済みのNAVを破棄し、最新の情報を適正に反映するべくNAVの再計算を指示しました。管理会社、受託会社、事務代行会社、Kingateファンドとの間で密接な連絡と詳細な検証を数日間続けた結果、マスター・ファンドの損失の範囲と程度を確定できました。マスター・ファンドのNAVを再計算した後、レバレッジ型パフォーマンス連動債券を通じてマスター・ファンドに実質的に投資しているN1グローバル・ジャパンのNAVを再計算しました。このように不運な状況を背景としてのために、N1グローバル・ジャパンのNAVの公表が大幅に遅延しました。これによって投資家の皆様におかけしましたご心配とご迷惑を心より深くお詫びいたします。私ども管理会社は今後の状況を注意深く監視し、本件に関する新しい情報が入りましたら、投資家の皆様に速やかに即座にお知らせいたします。

マクロ経済的観点から、2008年10月は9月と同様に世界的な信用逼迫と金融市場の混乱が続きました。世界の多くの金融市場が深刻な危機状態に瀕したため、各国の政府や中央銀行は流動性を改善するために、極めて多額の資金を市場に注入しました。株式市場やコモディティ市場では引き続きリスク資産売却の動きが継続し、用心深い投資家はあらゆる資産クラスや地域から前例のないペースで資金の回収を進めました。各種メディアは2008年9月を「完全な嵐」と書き立てましたが、10月はその嵐が時を過ぎてさらに勢いを増したと言えるでしょう。

米国政府は金融安定化法案を通じて金融市場に介入しましたが、市場の大きな混乱は収まらず、ダウ指数は前月比14%超の下落、MSCI世界株価指数は前月比19.10%超の下落となりました。なお、Eurekahedgeヘッジファンド指数は前月比3.9%の下落にとどまりました。

2008年10月、注意深い多くの投資家がヘッジファンドの解約を進め、各運用会社は下げ相場の中で様々な資産(特に流動性の低い資産)を売らざるを得なくなったため、複数のヘッジファンド戦略が劣悪なパフォーマンスに陥りました。保有資産の無理な売却によって多くのファンドの純資産が大きく減少し、一部のファンドでは解約制限が適用され始めました。10月に特に損失が大きかった戦略は、株式ロング/ショート、債券アービトラージ、新興市場、ディストレスト債券などでした。

2008年9月から10月は純資産価額の下落という残念な結果になりましたが、管理会社はファンドの資産を効率的に保護するのに必要な措置を採っています。10月のマスター・ファンドの下落率は10.29%でしたが、マスター・ファンドに対して約3.2倍のレバレッジ比率で投資を行っていたN1グローバル・ジャパンの下落率はかなり大きくなりました。レバレッジはいわゆる諸刃の剣二刀の剣である(相場の上下変動が増幅される)ため、管理会社は投資家の資産を保護するためにレバレッジ比率を相対的に下げることを決定しました。

マスター・ファンドのポートフォリオについては、管理会社の投資選択基準に合致しなくなった複数のファンドを解約して除外しました。現在のような不確実性の時期には、現金資産が非常に重要であるため、管理会社はポートフォリオに多くの流動性を追加するよう最善を尽くしています。市場が底を打ったかどうかは誰にも分かりませんが、回復方向に向かっている兆候は十分に見られます。管理会社は市場の反転をうまく捉えるべく、ポートフォリオを保護しながらポジションを調整してゆく所存です。

最後に、このような混乱の時期に、私どもN1 Asset Managementをご支援くださる投資家の皆様に深く感謝の意を表したいと思います。ポートフォリオや市場見通しに関するご質問にもお答えしたいと考えておりますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

ご 留 意 事 項

本レポートは、N1グローバル・ファンド(愛称:N1グローバル・ジャパン、以下「当ファンド」といいます。)の運用状況に関する情報提供を目的に、N1ファンドLtd.が作成した月次レポートに基づき、キャピタル・パートナーズ証券が翻訳・作成したものです。本レポートは、当ファンドの取引を勧誘又は推奨するものではなく、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

本レポートは弊社が信頼できると考える情報等に基づいて作成されておりますが、その正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、本レポート中のグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当ファンドは値動きのある金融商品等に投資します(外貨建資産に投資する場合は為替リスクもあります)ので、当ファンドの基準価額が変動し、損失が生じるおそれがあります。したがって投資元本が保証されているものではなく、ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

投資信託は金融機関の預金と異なり、預金保険の対象ではありません。

投資をされる際には、契約締結前交付書面又は投資信託説明書(交付目論見書)などで投資リスク及びご負担いただく手数料などの諸費用についてよくご確認の上、ご自身の責任と判断をお願いします。

当ファンドの主な投資リスク

当ファンドはマスターファンドへの投資を行う債券への投資を通じて、実質的に複数のヘッジファンドに投資を行います。ヘッジファンドは、様々な投資戦略をとり、投資対象は株式、債券、為替、金融先物、商品先物、各種オプション取引など多岐に亘ります。これらの金融商品は価格が変動しますので、当ファンドの純資産価額に損失が生じ、投資元本を割り込むおそれがあります。

当ファンドの主な投資リスクには、市場リスク、為替リスク、流動性リスク、カントリーリスク、地政学リスクなどがあります。

お申込メモ

- 信託期間 無期限(平成20年4月1日設定)
- 収益分配 原則として分配は行なわない
- 買付／買戻価額 評価日(通常各月の最終営業日)における1口当り純資産価額
- 買付単位 100口以上100口単位
- 買付申込日 毎月初の営業日の5営業日前
- 買戻申込日 毎月初の営業日の40暦日前
- 課税関係 現行の税制では買戻しにかかる損益は課税されない

関係法人

- | | |
|----------|--|
| 運用会社 | N1アセット・マネジメント |
| 販売会社 | キャピタル・パートナーズ証券株式会社 |
| 受託会社 | バンク・オブ・バミューダ(ケイマン)リミテッド |
| 管理事務代行会社 | HSBCインスティテューショナル・トラスト・サービスーズ(アジア)リミテッド |

当ファンドにかかる費用等 注) NAV:純資産総額

- 申込手数料 お買付価額の5.25%(税抜5.00%)を上限として弊社が定める額
※詳しくは販売会社にご確認下さい
- 管理報酬等 マスターファンドレベル:NAVの年率3.0% 当ファンドレベル:NAVの年率0.5%
- 成功報酬 NAVの増加額の20% ※ハイウォーターマーク方式、マスターファンドのみ
- その他費用 設立費用、監査費用、弁護士費用、事務管理費用などがかかります。
※これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことが出来ません。

販売・取扱会社の概要

- | | | |
|-------|--------------------------------------|----------------|
| 商号等 | キャピタル・パートナーズ証券株式会社金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第62号 |
| 本店所在地 | 〒103-0027東京都中央区日本橋3-12-2 朝日ビルディング6階 | |
| 加入協会 | 日本証券業協会 | |
| 資本金 | 4,750百万円(2008年3月31日現在) | |
| 主な事業 | 金融商品取引業 | |
| 設立年月日 | 1999年12月27日 | |
| 連絡先 | 03-4543-1000(本店代表)又はお取引のある支店にご連絡ください | |

本資料のお問い合わせ先

お客様の担当営業員 又は下記までお気軽にお問い合わせ下さい

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-11 油脂工業会館1階 キャピタル・パートナーズ証券株式会社
海外ファンド営業部 TEL 03-4543-1144(平日9:00~18:00 土・日・祝日は休業)
E-mail cs@capital.co.jp(※回答までに多少お時間を頂戴する場合がございます。)